

51 青少年学徒に賜りたる勅語奉読式の件通牒

〔昭和十六年四月〕

(注記1)	発専八九号
定決裁	4月19日
文書課長	(有原)伊藤
	(注記2)
送発	4月23日
	(注記3)
起案者	石坂
	(春山)

昭和十六年四月十七日起案

専門学務局長(永井)

次官

普通学務局長(中野)

実業学務局長(關口)

(節木)

(稻田)

(朝比奈)

(石丸)

(田中)

(有光)

(伊藤)

(伊藤)

(伊藤)

文書課長(田中)

(伊藤)

青少年学徒ニ賜ハリタル 勅語奉読式ノ件

(注記5)

(注記4)

案

年月日

文部次官

東京市内
所在ノ

東京帝國大學総長

男女高等師範學校長

官公私立高等学校長

官公私立專門學校長

発送學校名別紙ノ通り

(下札)

青少年学徒ニ賜ハリタル 勅語ノ件

モ有之タル處各学校ニ於テハ右ニ基キ実施相成度此段及通牒

追而本年ハ本省ノ^(加筆)〔主〕催ニ係ル 勅語奉読式ハ挙行致サザル

二付御了知相成度

(抹消)

案ノ二

年月日 文部次官

大学高等専門学校建国奉祝式ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ客年十一月一日附建発第七十四号ヲ以テ、
御照会有之同年十二月十七日附、雜文五七号ヲ以テ^(加筆)〔及〕回答候
處本年五月二十二日ハ

(注記⁶)
發文一一二号

昭和十四年七月七日

文部次官

直轄學校長

測候技術官養成所主事

私立大學、高等学校、専門學校長

宛

各地方長官

青少年学徒ニ賜リタル 勅語ニ關スル件

標記ノ件ニ關シテハ既二六月六日發文第一一二号ヲ以テ通牒致
シ置キタルヲ以テ聖旨奉答ノ實ヲ挙グル為夫々具體的計画ヲ樹
立シ、銳意実践セラレ居ルコト、存ズルモ左記ノ点ニ付テハ特

二御留意ノ上実施相成ヤウ致度此段通牒ス
注意
「貴管下各学校等ヲシテ夫々具體的計画ヲ樹立シ銳意留意実
施セシメラレ居ルコト、存ズルモ左記ノ点ニ付テハ特ニ留意
ノ上実施セシメラル、ヤウ致度」

記

一、本年五月二十二日青少年学徒ニ賜ハリタル 勅語ハ國民ノ
後勁タル青少年学徒ノ嚮フベキ所ヲ照示セサセ給ヒタル
聖訓ニシテ一般学徒ハ勿論之ガ指導啓培^(抹消)〔二〕ノ任ニ在ル者
モ齊シク夙夜之ヲ服^(抹消)〔膺シ〕膺シ自奮自励相率ヰテ奉公ノ誠
ヲ効スペキモノナルニ付各学校等ニ於テハ自今毎年五月二
十二日ヲトシ青少年学徒ニ賜ハリタル 勅語ノ奉読式ヲ挙
行シ 聖旨奉答ノ決意ヲ新ニスルト共ニ男子中等学校（青
年学校ヲ含ム）以上ニ在リテハ御親閱記念トシテ学生生徒
ノ分列式ヲ挙行シ女子ノ学校及小学校ノ上級ニ於テモ成ル
ベク分列式ハ部隊行進等ヲ行フコト又各学校等ニ在リテハ
当日夫々神社参拝、武道演練、作業訓練（防空又ハ、非常
変災訓練ヲ含ム）等実情ニ依り適宜之ヲ実施スルコト

二、今回ノ 勅語ノ謄本ハ追テ之ヲ各学校等ニ交付スル見込ナ
ルモノノ奉読方ニ付テハ別紙ニ拠ルコト尚右勅語ハ成ルベ
ク多クノ機会ニ於テ之ヲ奉読シ教職員並ニ学徒ヲシテ愈々
奮励努力以テ優渥ナル

聖旨ニ答ヘ奉ランコトヲ期セシムルコト

昭和十四年六月六日

次官

直轄學校長

測候技術官養成所主事

私立大學、高等學校、專門學校長

宛

各地方長官

青少年學徒ニ賜ハリタル 勅語ニ閑スル件

昭和十四年五月二十二日文部省訓令第十五号ヲ以テ青少年學徒

ニ賜ハリタル勅語ノ 聖旨奉體方ニ閑シ訓令相成リタルトコロ

凡ソ青少年學徒タル者ハ幼稚園小學校ヨリ大學ニ至ル迄男女ヲ
問ハズ感奮興起謹ミテ 聖訓ニ恪循シテ堅ク其ノ本分ヲ守リ弥々
切磋砥礪修文練武之レ努メテ皇國人タルノ資質ノ練成ニ專心シ
又コレガ啓導ニ任ズル者ハ深キ決意ヲ以テ教育ノ刷新ヲ画シ率
先範ヲ垂ル、ハ勿論學徒ノ校内外ニ亘ル全生活ヲ通シ一貫セル
教導ニヨリテソノ人格ヲ薰化玉成シ以テ 聖旨ニ答ヘ奉ルベキ

義ト存セラルニ付各々ソノ校ノ校紀教育指針並ニ學徒各自ノ
修養及日常生活ノ実状ニツキ深キ省察ヲ加ヘ速ニ改ムベキハ之
ヲ改メ進ムベキハ之ヲ進メラルベキモノニ有之仍テ各校ニ於テ
ハ 聖旨ニ副ヒ奉ルベキ実踐的具体案ヲ樹テ速ニソノ実効ヲ挙
ゲル様致シ度依命此段通牒ニ及ブ

追テ右案ハ六月末日迄ニ官房文書課長宛御報告相成度

(地方長官宛ノ分ニハ左記ヲ加フ)

「仍テ貴管下學校幼稚園ヲシテ 聖旨ニ副ヒ奉ルベキ実踐的具
体案ヲ樹テ速ニソノ実効ヲ挙ゲシムル様致サレ度依命此段通牒

ニ及ブ

追テ参考ニ供度ニ付右案中特ニ適切ト認メラルモノ七月十五
日迄ニ官房文書課長宛御報告相成度

雜文五七号

昭和十五年十一月十七日

文部次官

建國祭委員長殿

大學高等專門學校建國奉祝式ニ閑スル件

標記ノ件ニ閑シ客月一日附建發第七十四号ヲ以テ御照會ノ処當
省ニ於テハ毎年五月二十二日ヲ青少年學徒ニ賜ハリタル 勅語
奉戴記念日トシ都下大學高等專門學校ノ學生生徒ヲ之ニ參加セ
シメ記念行事繼續挙行ノ予定ニ付御了知相成度

建發第七十四号

昭和十五年十月一日

建國祭委員長 永田秀次郎

文部次官 菊地豊三郎殿

建國祭本部ニ於テハ昭和十年二月以来毎年 皇族殿下ノ台臨ヲ
仰キ代々木練兵場ニ於テ標記ノ式典ヲ挙行シ來リ候處昨十四年
五月二十二日貴省御主催ノ現役將校配屬令制定十五周年記念全
國青少年學徒ノ御親閱式ニ畏クモ優渥ナル勅語ヲ賜リ本年ハ亦
青少年學徒ニ賜リタル勅語渙發記念式典ヲ挙行セラレ青少年學

徒ニ対シ最モ深キ感銘ヲ与ヘ時艱克服ノ意氣ヲ發揮セシメラレ
候事ハ洵ニ邦家ノ為慶賀ノ至リニ御座候

就テハ今後モ貴省ニ於レテハ毎年之ガ式典ヲ挙行セラル、事ト
推察仕リ候ヘ共御承知ノ如ク本部ニ於テモ毎年二月ニ同一様式
ノ式典ヲ挙行シ結局年二回ニ渡ツテ挙行致スコト、相成候ニ付
貴省ニ於セラレ今後毎年同式典ヲ継続シテ挙行致サレ候ハ、本
部トシテハ明年ヨリ之ガ式典ヲ中止致シ度候間洵ニ御繁多中恐
縮ニ存シ候ヘ共準備ノ都合上御継続サル、ヤ否ヤ至急御指示相
仰キ度此段及御願候

學 校 名	參列校長教職員數	參加學生數	備 考
東京帝大	一九	六四九	
東京工大	二九	三五六	
東京文理大	二〇	三、六八九	
早稻田大學	三九	四、五五七	
慶應大學	一九	一、三〇〇	
明治大學	一五	九二〇	
法政大學	二〇	二、二九五	
中央大學	五四	三三八	
日本大學	五		主事補技官三
國學院大學			

第一高等学校	三八	一、一七八	主事
東京高等学校	二〇	四三三	
府立高等学校	一〇	三七九	
武藏高等学校	二〇	二七二	
成城高等学校	一九	三八五	
學習院高等科	一三	一八八	
慶應義塾大学予科	一七	一、五〇〇	
早大第一高等学院	一五	二、一〇六	
同第二高等学院	一八	一、八〇〇	
明治大学予科	一三	一、七三六	
生徒主事			

明治学院	專修大專門部	武藏野音樂(男)	東洋大專門部	農中央專門部	法政專門部	明大專門部	水產講習所	善隣高商	麻布獸醫專門	東京高等獸醫	巢鴨高商	東京電機工業	東京寫真專門	大倉高商	高千穗高商	東京農業教育	東京高等商船	東京高等工芸	府立高工	東京帝大醫師
九三三二二七二〇一〇一八	五九三二二七二〇一〇一八	一、二〇〇	一一、二〇〇	一、二〇〇	一一、二〇〇	二六、六〇〇	二四	三四四	四五三〇	五〇六	四七四	七七	一二一	六〇〇	二六五	三九六	一五四三	五四九	八一	

配代

参列校長、教職員数	参加学生生徒数	主事	備考
八五	五一八	東京女子高師	東京音楽
七	二六二	日本女子大学	
五四	一、四四六	帝國女子専門	
六	四二七	聖心女子学院	
三	七五〇	東京女子大学	
二	一七九	東洋女子歯科医専	
一	五〇六	東京女子専門	
一	五三四	日本女子歯科医専	
一	五一	帝國女子医薬専	
一	二八〇	実践女子専門	
一	一、五四九	共立女子専門	
一	一、二八〇	日本女子体育	
一	七三三	千代田女子専門	
一	八九	聖路加女子専門	
一	二四四	東京家政専門	
一	三八一	聖路加女子専門	
一	四〇	明大専門部女子専門	
二	五六四	和洋女子専門	
三	二七	青山学院専門部神学部女子部	
四	三六〇	女子美術専門	
五	六二	和洋女子専門	
六	四五	明大専門部女子専門	
七	一	聖路加女子専門	
八	一	東京家政専門	
九	一	日本女子体育	
一〇	一	千代田女子専門	
一一	一	聖路加女子専門	
一二	一	明大専門部女子専門	
一三	一	和洋女子専門	
一四	一	青山学院専門部神学部女子部	
一五	一	女子美術専門	
一六	一	和洋女子専門	

